

露地点滴灌水の効果確認試験



JA北いぶき

(有)HJYさくら



7月慣行区全体



7月試験区全体



スプリンクラー



8月慣行区草勢



8月試験区草勢

試験目的

点滴灌水によるトマト生産向上効果の確認

試験作物
及び品種加工用トマト
品種「なつのしゅん」試験資材
及び数量(規格)

全農式点滴灌水キット(小規模キット)

慣行資材

スプリンクラー

栽培方法

定植日	収穫日
慣行区:6月上旬 試験区:6月上旬	慣行区:9月中旬 試験区:9月中旬

資材使用期間

6月上旬～10月中旬

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

最初は説明書等を見ながらキットを組み立てる必要があり時間がかかったが、慣れたら簡単に組み立てることが出来る。

省力化のためマルチャーを使用して灌水チューブとマルチを同時に設置する工夫が必要だったが、問題なく設置することが出来た。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

試験区のほうが草勢があるように見えた。

試験区のほうが尻ぐされが若干軽減されているように感じた。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】: 灌水、肥料散布作業の省力化。マルチを使用しているにもかかわらず灌水、液肥の投与ができる。

【問題点】: 最初は組み立てに時間を要する。栽培方法によっては工夫が必要。

モニター感想

今年も例年と同じように定植直後に晴れの日が続いたが、点滴灌水キットの手配ミスにより定植直後に使用できず、スプリンクラーによる灌水を行ったが、活着がうまくいかずに植え直した。その後点滴灌水キットによる灌水を行った。試験区では灌水時に電源を入れ、一定時間が経てば電源を切るだけなので灌水作業がとても楽になった。また、普及センターからの

助言で葉面散布剤「クロロゲン」を使用した。慣行区ではスプレイヤーを使用して葉面散布を行う必要があったが、試験区では液肥として使用することができたため作業が楽だった。生育については試験区のほうが草勢があるように感じた。収穫量について、植え直し前の定植直後に使用できればかなり違いがあったと思うが、今回の試験ではあまり違いは見られなかった。来年も引き続き試験を行うため、定植直後に使用してどの程度収穫量に違いが出るか期待したい。

JA担当者の感想(佐藤課長)

活着前の水不足に悩まれているとのことと本資材の試験を行うことになったが、手配ミスにより当初予定していた時期よりも遅れて使用することになり、資材の効果を最大限に活かすことが出来なかったように思える。また調査の方法があいまいなところがあり、正確な結果が出なかった。来年も試験を行う予定なので調査方法を改めるなど、今年の実験を活かしてより良い結果が出ることを期待したい。

今後の使用について

継続して使用したい。
加工用トマトに点滴灌水キットを使用している前例がないためどこまで効果があるかわからないが、今年の実験を踏まえて、来年にはより良い結果が得られるよう期待したい。